

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 14 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20401033

研究課題名（和文） 古代イスラエルにおける一神教の成立過程に関する考古学的研究

研究課題名（英文） An Archaeological Study on Formation of Monotheism in Ancient Israel

研究代表者

杉本 智俊（SUGIMOTO TOMOTOSHI）

慶應義塾大学・文学部・教授

研究者番号：80338243

研究分野：人文学 B

科研費の分科・細目：考古学

キーワード：イスラエル エン・ゲヴ 土偶 一神教 アスタルテ 生命の木

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、古代イスラエルにおける一神教の成立過程を考古学的にとらえ、一神教文化と多神教文化のダイナミズムを理解することにある。これまでこの地における一神教の成立過程については、聖書の文献学的研究や宗教学からさかんに議論されてきたが、これらの研究は聖書自体の宗教的意図や各研究者の思想的前提に影響される面が大きく、限界が感じられてきた。そこで本研究は、聖書から独立した資料の得られる考古学的研究から、新たにこの問題解明の視点を得ようとするものである。

具体的には、以下の3つの側面から調査を行う。(1)イスラエル王国成立当初イスラエルと同盟を組んだにも関わらず、後にアラム領に入り多神教的文化を形成するに至った隣国ゲシュルの代表的都市エン・ゲヴ遺跡の発掘調査を行い、イスラエルとその周辺地域の宗教意識の違いを明らかにすること。(2)イスラエルにおける発掘調査、とりわけ日本隊の調査、によって得られた宗教遺物(土偶など)を総合的に分析し、宗教的象徴に反映される一神教の概念の変化を理解すること。(3)当時の多神教の代表的女神であるアスタルテの性格が地域と時代によってどのように変化したかを考古遺物から捉える国際カンファレンスを開催し、イスラエルと周辺地域の宗教観の違いを明確化し、一神教成立の背景を理解すること。このカンファレンスは一般公開とし、将来英文で研究書として出版する。

2. 研究の進捗状況

(1) に関しては、すでに2009-2010年度にエン・ゲヴ遺跡上の町で発掘調査を行っており、前11世紀末から前8世紀の公共建造物

と考えられる遺構が出土している。これは、イスラエル王国成立時(前10世紀)から滅亡時(前8世紀)と並行しており、前半はゲシュル王国、後半はアラムの物質文化を反映していると考えられる。とりわけ前10世紀の遺構からは、複雑な宗教的図像が刻まれた大型の印章が出土しており、ゲシュルとイスラエルの宗教観の違いを解明する上で大きな意味を持つと期待される。これらの成果は、American Schools of Oriental Research や西アジア考古学会で発表されており、『史学』や *Hadashot Arkheologiyot* 誌に公刊されている。

(2) に関しては、研究代表者の杉本が初年度に「古代イスラエルの宗教関連考古遺物と一神教の成立過程」というプログラムの論文を執筆し、現在まで知られる考古遺物の全体から一神教の成立過程がどのように考えられるか、全体像の把握に努めた。2年目以降は、この成立過程理解の是非を検証するため、具体的遺物の分析を行っている。2009年度には、テル・レヘシュ遺跡出土の「生命の木」の刻まれた土器の分析を行い、オリエント学会及び『オリエント』誌に発表し、2010年度は「ユダ式柱状土偶」の分析を行い、オリエント学会で口頭発表した。これは、さらに後述のアスタルテ・カンファレンスで発表、出版する予定であった(以下、参照)。また、研究協力者の月本、佐藤も同カンファレンスのために別の宗教遺物の分析を行っている。

(3) に関しては、昨年度3月に「イシュタル・アスタルテ・アプロディテに関する国際カンファレンス」(略称アスタルテ・カンファレンス)を慶應義塾大学で開催する準備をしていた。これは地震のため延期となったが、ほぼ同じ内容のカンファレンスを本年度8月

に開催する予定である。カンファレンスの予稿集はすでに作成されている。

参加者としては、松島英子（法政大学、アッシリア学）、月本昭男（立教大学、アッシリア学）、マーク・スミス（米国ニューヨーク大学、ウガリト学）、I.コーネリアス（南アフリカ、シュテレンボッシュ大学、青銅器時代図像研究）、田澤恵子（英国リバプール大学、エジプト学新王国時代）、S.アントニオズ（フランス、リール・カトリック大学、旧約聖書学）、杉本智俊（慶應義塾大学、イスラエル考古学）、E.ブロック＝スミス（米国ヴィラノバ大学、イスラエル考古学）、佐藤育子（日本女子大、フェニキア考古学）、S.パディン（米国ラトガー大学、ヘレニズム考古学）、辻村純代（国土館大学、ヘレニズム考古学）が予定されている。本研究代表者の杉本、研究分担者の月本と佐藤も発表を行い、越後屋は司会を担当する。

3. 現在までの達成度

「おおむね順調に進展している。」

(1)に関しては、計画通りの時期の公共建造物の遺構が発掘されており、これらは当時の文化的伝統や思想を反映している可能性が高いからである。宗教遺物もすでに検出されている。(2)に関しては、研究代表者が全体を俯瞰する論考の他、土器の宗教図像、土偶、印章の図像などの分析を行っている。また、研究協力者たちによってシリア・メソポタミア、フェニキアの関連遺物の研究もなされているからである。(3)に関しては、カンファレンスの準備はほぼ完全に行われ、予稿集も出版されたが、地震のため開催が延期となった。しかし、これに向けた研究はすでに完成しており、8月にはカンファレンス自体が改めて開催されることになっているので、これも本年度終了までに問題なく達成できると思われる。さらに、このカンファレンス開催に合わせて慶應義塾大学メディア・センターでは、「女神の変容」と題する西アジアの宗教遺物の展示が行われた。

4. 今後の研究の推進方策

(1) エン・ゲヴ遺跡の発掘調査は2011年度も継続し、公共建造物の性格把握に努めるとともに、出土した宗教遺物の分析、出土コンテキストの解明、共伴遺物の有無等を確認する予定である。本年度は、最終年度として発掘調査の成果をまとめて成果報告書を作成し、将来の最終報告書作成の準備を行う。

(2) エン・ゲヴ遺跡出土の印章の分析を行い、独立した論考として出版するほか、成果報告書において、個々の遺物の分析がイスラエルにおける一神教成立過程の理解にどう関わるのかを明確化する予定である。

(3) 2011年3月に予定していた「アスタル

テ・カンファレンス」は2011年8月に改めて開催する。発表内容は、カンファレンスの議論に基づいて改訂した上、古代オリエント研究の研究叢書として知られるOBOシリーズ（Vandenhoeck & Ruprecht / Universität Freiburg）から欧文で出版される予定になっている（本研究期間終了後）。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計12件)

杉本智俊・間舎裕生「2010年度エン・ゲヴ遺跡（イスラエル）における発掘調査」『史学』80巻1号、71-89頁、2011、査読有

D. T. Sugimoto, "Tel 'En Gev: Preliminary Report," *Hadashot Arkheologiyot* Vol. 122 (digital version, 2010, 査読有)

杉本智俊「イスラエル鉄器時代出土土器に見られる『生命の木』の意義」『オリエント』52巻2号、23-46頁、2010年、査読有

杉本智俊・間舎裕生「2009年度エン・ゲヴ遺跡（イスラエル）における発掘調査」『史学』79巻1-2号、87-114頁、2010、査読有

杉本智俊「古代イスラエルの宗教関連考古遺物と一神教の成立過程」市川裕、松村一男、渡辺和子編『宗教史とは何か(上)』(リトン) 2008: 229-266、査読無

〔学会発表〕(計8件)

杉本智俊「ユダ式柱状土偶とアスタルテ」日本オリエント学会第52回大会、2010年11月7日、国土館大学世田谷キャンパス

D. T. Sugimoto, "The Excavations at Tel 'En Gev, Israel: Summary of the 1990-2004 Seasons and Summer 2009," The Annual Meeting: American Schools of Oriental Research, 2009/ 11/ 20, New Orleans.

杉本智俊「イスラエル鉄器時代出土土器に見られる『生命の木』の意義」日本オリエント学会第51回大会、2009年11月12日、東海大学代々木校舎

月本昭男「カナンにおける女神の系譜 - アシュタルテ、アシェラ、アナト - 」慶應義塾大学言語文化研究所公開講座、2008年10月4日

佐藤育子「北アフリカにおけるタニト女神信仰の広がりの変容」慶應義塾大学言語文化研究所公開講座、2008年10月4日

〔図書〕(計1件)

D. T. Sugimoto (ed.), *Keio University International Conference on Ishtar / Astarte / Aphrodite: Transformation of a Goddess*, 2011, 211p. (予稿集)